

聖陵 Sei-Ryou

2025.3 Vol.28
盛岡大学聖陵同窓会報



発行所／盛岡大学聖陵同窓会
事務局／〒020-0694
岩手県滝沢市砂込 808 盛岡大学内
電話 .019-688-5555
ホームページアドレス
<http://www.morioka-u.ac.jp/seiryou/>

CONTENTS

■ 同窓会長挨拶	1	■ 活躍する在学生	2
■ 理事長挨拶	1	■ 恩師からのメッセージ	3
■ 学長退任の挨拶	2	■ 同窓会報告	4
■ 盛岡大学の今	2	■ Information	4
■ 卒業生は今	2	■ 事務局だより / 編集後記	4



硬式野球部1部リーグ第3位



出張miniオープンキャンパス



聖陵祭



プログラミング☆ラボ

盛岡大学は昨年の五月に、高橋嘉行新理事長が就任し、本年の四月には、長谷川公一新学長が就任することとなりました。2名のリーダーをお迎えして、新時代を切り開いて参ります。盛岡同窓会も一連托生です。さて、昨年の十一月の公開講座では、第二部において、岩手県教育委員会の抱石鉄也氏（平成八年度卒業生）の司会で、現役教員で活躍している卒業生も招き、教育現場の現状や課題について、積極的な議論が行われました。また、教員養成という面では、令和七年度において、延べ一二五名にも及ぶ合格者数となっており、今後の教育現場での活躍が期待されます。やはり、教育現場で活躍する卒業生が多いことは、本学のストロングポイントの一つであると言えます。次に、盛岡さんさ踊りでは、ドリームさんさチームが、昨年も優秀賞を受賞いたしました。盛岡大学のさんさ踊りは、ドリームさんさチームの活躍も伝統となっておりますが、腰に巻くゆかた帯について、従来は在校生から借用しておりましたが、現在、オリジナルの帯を準備しており、今夏皆様へご披露できる予定となっております。最後にありますが、一万五千名の聖陵同窓生皆様のご健勝と、今後共本学と聖陵同窓会への御支援をよろしくお願いいたします。

活躍する、盛岡大学卒業生



盛岡大学聖陵同窓会
会長 菅原 元

同窓会長 あいさつ



盛岡大学聖陵同窓会名誉顧問
学校法人盛岡大学理事長
高橋 嘉行

理事長 あいさつ

春の息吹を感じる季節となりましたが、聖陵同窓会の皆様にはご健勝のこととお慶び申し上げます。そしてまた、同窓会の皆様方からいただいている物心両面にわたるご支援ご協力に、この場をお借りして改めて厚く感謝を申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス禍が収束に向かい正常な学園生活の下で、学生たちは教員免許、管理栄養士国家試験受験資格などの資格取得に鋭意取り組むとともに、日本文学や英語文化学、社会文化学などの幅広い教養分野での研鑽を重ねてきました。課外活動においては、さんさ踊り同好会が8月の「盛岡さんさ踊り」初日に庄巻の演技を披露するなど、部活動やサークル活動にも盛んに取り組んだ1年とすることができました。同窓会の皆様にもさんさ踊りへの参加や聖陵祭・聖華祭へのご来場等をいただき感謝の念に堪えません。本法人といたしましては今後とも、健全な法人運営に努めながら、地域社会を担う人材育成、人間教育に努めてまいりますので、今後とも、これまで同様に変わらぬご支援等をよろしくお願いいたします。終わりに、聖陵同窓会の今後ますますのご発展と会員各位のご健勝、ご活躍を祈念申し上げ挨拶いたします。

学長退任の挨拶



盛岡大学学長 高橋 俊和

令和7年3月31日をもって、教員生活に終止符を打ちます。盛岡大学文学部日本文学科の教員として、平成11年4月に着任して以来、26年もの長い間、砂辺キャンパスで充実した時を過ごさせていただきました。

本学は、昭和56年4月に開設した文学部・英米文学科・児童教育学科からスタートして、時代と地域のニーズに応じて学部・学科を増設し、これまで1万5千人余りの卒業生を社会に送り出してきました。私は、先輩たちの築いた伝統ある盛岡大学を、社会の変化に対応しながら次の世代に橋渡ししようという思いで、最後の6年間、学長職に就かせていただきました。ただ、在任中の6年間は想定外の社会問題に遭遇し、思うような改革ができなかったことに悔いが残ります。

平成から令和に時代が移り、日本社会全体が急激に大きなうねりの中に放り込まれているような気がしてなりません。コロナ禍を経験した後の最大の課題は、少子高齢化に起因する様々な問題の顕在化です。教育の世界、とりわけ高等教育機関である大学も例外ではなく、漸減傾向を加速させている18歳人口の減少は、2025年に全国の大学が受験生と合格者の数が逆転する全入時代を迎えたことをマスキミが報じています。

こうした社会状況の変化に対応し、盛岡大学が生き残っていく上で拠り所となるのは、原点となる「建学の精神」です。「愛と奉仕」の精神に基つき、卒業生の皆さんがそれぞれのおかれた立場で、地域に根差して貢献しているという社会からの高い評価は、何にもまして嬉しいものです。伝統ある北東北の小規模大学であるメリットを活かし、盛岡大学が同窓会の皆様に支えられながら、これからも地域社会に必要とされ貢献し続けることを願って止みません。お世話になりました。重ねて御礼申し上げます。

盛岡大学の今（盛大さんさ 最優秀賞受賞）

8月1日、盛岡大学・盛岡大学短期大学部さんさ踊り実行委員会は、盛岡さんさ踊りのパレードに参加し、最も優れている団体に贈られる、「最優秀賞」をいただくことができました。4月から8月の本番までの期間、私たちはこの最優秀賞を目標に日々練習に励んできました。本部席の前では「ミラクル」を巻き起こす演舞を披露することができました。

また、今年度は、トヨタカローラ岩手さんのCMに起用していただき、盛大さんさを皆様に知っていただく貴重な機会となりました。本番は、沿道から沢山のご声援をいただき、それは私たちの大きな力となりました。本当にありがとうございました。

今年度は、盛大さんさ踊り実行委員会として6年ぶりの最優秀賞受賞となり、私たちにとっても忘れられない夏になりました。来年度も、皆様に熱い演舞をお見せできるよう、練習に励んでいきます。今後とも、盛大さんさに暖かいご声援をよろしくお願いいたします。



トヨタカローラ岩手 CM



卒業生は今



文学部 児童教育学科 平成8年度卒業
South Puget Sound Community College 准教授
鈴木 亜希さん

“Eventually, all things merge into one and a river runs through it”（最終的には、すべてのものが一つに溶け合い、その中を一つの川が流れている）ブラッドピットの映画に魅了され、外国への憧れをもって1992年盛岡大学での生活が始まり、短期留学を経験し、1998年大学院修了後ワシントン州都、オリンピアのSouth Puget Sound Community Collegeに留学しました。そこは景色や空気が澄んでいるところ人の温かさが盛岡に似ていました。

2003年SPSCCで日本語教員として採用され、教鞭をとる中で、学生が日本への憧れを語ってくれた時、その一歩を踏み出させてあげたいと希望をもったところ、2024年、念願の両校の国際交流が始動し、協定が結ばれました。

今後、未来の学生たちが多様性に柔軟に順応し、最終的に国際交流を通して1つに溶け合い、その中を1つの川のように人々が流れていけるriver runs through itの環境を世代を超えて作っていただけることを願っています。

活躍する在学生



文学部
社会文化学科 2年
大坊 陽彩人さん

私は盛岡大学で学習に励む傍ら、紫波町のオガールアリーナを拠点に活動している「岡崎建設 owls」というクラブチームに所属し、バレーボールの練習をしています。2024年度には東北で優勝したチームしか出場できない「佐賀国体」に参加し、更なる経験を積むことができました。

バレーボールは控え選手を含め、全員の状態が良いと試合に勝つことが多い印象です。自分だけではなく、周りのために何ができるのかを考え続けることが大切です。また、所属するメンバーの多くが社会人です。そのため、バレーボールの結果だけではなく、大人や地域との関わりを通じて人として成長できる環境にあると思います。プレーも人間性もまだまだ未熟ではありますが、地道に頑張っていきます。今後も応援の程よろしくお願いします。





文学部 児童教育学科

教授 間處 耕吉

盛岡大学で過ごしたのは5年でしたが、送り出したゼミ生は65名にもなります。送り出せなかった3年生15名を合わせると、関わりの深かったゼミ生だけでも80名にもなります。この5年間はコロナ禍もありましたが、ゼミ生達と出掛けて見たもの体験したこと全てが大切な思い出です。地元広島に戻ることで、距離は遠くなりますが、私にとってかけがいのない大切な場所であり続けるでしょう。

岩手の自然は素晴らしく、人々は優しく実直でしっかりと支えてもらえました。出会えたすべての自然と人々に感謝の気持ちを送ります。ありがとうございました。

恩師からのメッセージ



文学部 児童教育学科

教授 春日菜穂美

長い間お世話になり、たくさんの思い出がありますが、そのなかでもとりわけ東日本大震災後のことが印象に残っています。たくさんの学生が、授業の合間に被災地へ贈る絵本のラベル付けやフィルムコーティング、海水にまみれた文書の復旧作業などをやり、毎週、大型バスで朝早く出発して沿岸のプレハブ校舎の小学校支援に通ってくれました。他者を思いやる真剣であたたかなまなざし、とてもすてきでした。

自分や家族、友達などの身近な人も大事。それをベースに他のいきものたち、自然や社会・・・視界をひろげ、心を育てつづけてください。



栄養科学部 栄養科学科

教授 笹田 陽子

4年前、大学を退職した後、高齢者福祉施設で栄養管理の仕事をしました。

施設では多くの卒業生に出会いました。管理栄養士のFさん、Tさん、受託会社の方々、栄養業務の支援をするYさん等々、本当に皆さんいい仕事をしており、晴れがましい気持ちでいっぱいになり、卒業生の皆様と一緒に歩んでいることを実感しました。

昨年4月から、大好きな大学で教育に携わる機会をいただきました。講義や実習は実に面白く、新しい発見で学生以上にワクワクしました。

卒業生の皆さん、明るい未来のため、様々な分野で益々のご活躍を願っています。



文学部 児童教育学科

教授 大西 洋悦

このたび、盛岡大学を退官することとなりました。平成31年4月より6年間文学部児童教育学科に在職し、岩手県の小学校や岩手県教委・盛岡市教委等で勤務した経験を活かし、小学校教員を目指す学生の皆さんに教職や教採に関わる指導・支援を行ってまいりました。これまで関わった卒業生の皆さんの多くが小学校教員として活躍していること、大変嬉しく誇りに思います。これからも、「人を育てる教育のプロフェッショナル」としての自覚と誇りをもち教育に携わってほしいと願っています。今後も皆さんのご健勝とご活躍をお祈りいたします。



文学部 社会文化学科

教授 飛内 悠子

ありがとうございました。

2018年に着任し、7年間お世話になりました。大学教員として最初の就職先が盛岡大学でしたので、慣れないことも多く時に学生の皆さんに教えてもらいながらゼミの運営やフィールドワークの実施をしていました。また、人類学者の常として夏春（時に冬も）の授業のない期間には、調査のために大学を長く不在にしており、そうした教員の「都合」に付き合ってくださった皆さんに感謝申し上げます。

今年度で盛岡大学を退職いたします。これまでお世話になったすべての方に感謝を申し上げますと共に、みなさんの益々のご活躍を祈念しております。



文学部 児童教育学科

教授 福島 正行

卒業生へ

11年半の間、文学部児童教育学科に在籍しておりました。

指導学生に恵まれ、大変楽しく大学教員をさせていただきました。ありがたい経験でした。最近、岩手県内の小学校を訪問すると、教員として「しんどい学級」を担当して頑張っている者、若くして研究主任に抜擢されて活躍している者など、元指導学生の話に耳にすることが多くなりました。大変頼もしく思います。

今後の盛岡大学同窓生たちの活躍を期待しています。また、同窓会のますますのご発展をお祈り申し上げます。



文学部 日本文学科

准教授 山崎 薫

2019年4月に着任して以来、盛岡大学には6年間お世話になりました。忘れたいが、着任翌年の新型コロナウイルスの感染拡大です。不慣れた遠隔授業（音声配信）に四苦八苦しましたが、「毎回ラジオを聴いているようで楽しいです！」という優しい学生の皆さんの声に励まされました。大学では、日本の古典文学にかかわる科目を担当させて頂きました。古典文学作品の内容は、一見何もかもが現代と違っているようですが、深く読み解くと、何年経っても変わらない人間の普遍性のようなものを教えてくれます。そのことが伝わるような授業ができていれば嬉しい限りです。今まで大変ありがとうございました。

同窓会 報告

【スキー部 OB 会を開催】

去る 10 月 19 日（土）に盛岡市内でスキー部の OB 会を初開催しました。

「いつか再会したい」「また一緒に飲めたら」と願い続けながらも卒業後 30 年以上が経過し、諦めかけていただけに、喜びもひとしお。

加齢により容姿は少し(?)変わりましたが、参加者全員が世代を超えて懐かしい思い出話やスキー部創設時のエピソード話などで盛り上がり、当時のまま今も変わることのない互いの友情を確かめました。

都合により今回参加できなかった方は、次回ぜひご参加ください。

また、転居先不明などで今回お誘いできなかった方につきましては、次の開催に向け、お手数でも下記へご連絡いただけましたら幸いです。お待ちしております。

連絡先： 荒川昭典（平成 3 年 3 月 英米文学科卒）

〒 969-3133 福島県耶麻郡猪苗代町大字千代田字中島 1-2

rinokia5210wakaraa@yahoo.co.jp 090-9743-2855（ショートメール歓迎）



保育士の相談窓口のお知らせ

岩手県保育士・保育所支援センター



岩手県保育士・保育所支援センターは、保育士として、今後の働き方や再就職をお考えの方の相談窓口です（岩手県委託事業）。厚労省許可の無料職業紹介所である岩手県福祉人材センターに併設しています。保育士経験のあるコーディネーターが対応していますので、就職活動や働き方のご相談等を希望する際には、ご活用ください。

お問合せ

019-637-4544/
019-637-9605

HP

<http://www.iwate-shakyo.or.jp/hoiku/>

〒020-0831

岩手県盛岡市三本柳

8地割1番3

ふれあいランド岩手2階



事務局だより

同窓会員やその保護者様より、大学や大学同窓会を名乗った名簿詐欺の情報が寄せられております。同窓会ではこの同窓会報に同封している葉書以外の情報収集を行っておりません。不審な電話にお気をつけください。

今年度より導入されました「同窓生子女等入学金免除制度」。何名か利用がありました。盛岡大学を進学先に検討されている場合、こちらの制度の利用も検討してみてもいいでしょうか。

さて、聖陵同窓会の会員は今年の卒業生で一万五千名を超えますが、転居等により会報をお届けできていない会員も少なくありません。同窓生同士でお話しする機会などありましたら同窓会報のことを話の端にのせて頂き、「届いていない」という方がいらっしゃいましたら、住所変更登録を勧めて頂けると幸いです。また、「同窓生から聞いて」という形で情報登録もいくつか届いております。この場を借りて感謝申し上げます。

令和5年度 聖陵同窓会決算書

（令和5年4月1日～令和6年3月31日）

収入の部

（単位：円）

項 目	予 算 額	決 算 額
入 会 金	1,500,000	1,726,440
終 身 会 費	3,000,000	3,470,000
雑 収 入	20,000	926
寄 付 金	0	50,000
特定預金取崩収入	0	0
計	4,520,000	5,247,366
繰 越 金	4,765,973	4,765,973
合 計	9,285,973	10,013,339

支出の部

（単位：円）

項 目	予 算 額	決 算 額
事業費	5,070,000	3,451,901
事務費	10,000	6,160
通信費	50,000	2,720
会議費	200,000	78,500
慶弔費	100,000	54,568
旅費交通費	200,000	30,330
財政基金繰入支出	1,500,000	0
計	7,130,000	3,624,179
繰越金	2,155,973	6,389,160
合 計	9,285,973	10,013,339

Information

旧盛岡天主堂（盛岡大学細川泰子記念礼拝堂）登録有形文化財（建造物）に登録されました

令和6年7月19日に国の文化審議会から、文部科学大臣に対して登録の答申がなされた。盛岡大学附属高等学校敷地内にある旧盛岡天主堂（細川泰子記念礼拝堂）が令和6年12月3日付（文部科学省告示第百六十二号）で官報告示され、登録有形文化財（建造物）に登録されました。

旧盛岡天主堂（細川泰子記念礼拝堂）は、明治13（1880）年にパリ外国宣教会が布教のため四ツ家町（現本町通）に建立した岩手初の天主堂で、大正元（1912）年に当該建築物に建て替えられ、昭和53（1978）年に現敷地に移築されました。ロマネスクを基調とした繊細な意匠の木造天主堂で、当時の日本の洋風建築の歴史を知る上で貴重であると評価されました。

見学をご希望の方は、事前予約が必要となりますので、学校法人盛岡大学法人本部宗務課までご連絡ください。



（株）三衛設計舎提供

連絡先 学校法人盛岡大学法人本部宗務課 TEL：019-688-5656

編集後記

編集委員

古里愛子（平成24年度卒）／佐藤大裕（平成12年度卒）／上條尚樹（平成15年度卒）／長谷川健之（平成18年度卒）／柿本仁美（平成20年度卒）／松原千夏（平成25年度卒）／杉澤佑（平成26年度卒）／吉田美香子（平成27年度卒）／小棚木沙耶（令和3年度卒）

卒業生の話題が多い号となりました。余談ですが、この同窓会報は山口北州印刷さまに作成をお願いしており、元々は同窓生の縁で卒業生に担当いただいていた。今後とも同窓会では同窓生のつながりを大事にしていきたいと思うばかりです。